

## 鎌ヶ谷市地域福祉計画策定・推進委員会 令和7年度第1回会議 会議録

日 時 令和7年10月20日（月）午後2時～  
場 所 鎌ヶ谷市役所6階 第一委員会室  
出席委員 徳田訓康委員長、篠原遵一副委員長、三浦健委員、八須祐一郎委員、  
馬場一郎委員、鈴木和子委員、手塚昌幸委員、田尻昌治委員、  
田邊光子委員、中野洪委員、中込賢次委員、関本憲吾委員  
欠席委員 石川宏貴委員  
欠 員 1名  
事 務 局 小笠原健康福祉部部長、本間参事（事）健康増進課長、  
今井次長（事）社会福祉課長、築地副参事（事）幼児保育課長、  
舘岡副参事（事）高齢者支援課長、遠藤障がい福祉課長、  
星こども支援課長、林こども総合相談室長、飯島社会福祉課課長補佐、  
石川社会福祉係長、井上社会福祉課主任主事  
関 係 者 青木鎌ヶ谷市社会福祉協議会次長  
傍 聴 者 なし

### 【会議次第】

- 1 開 会
- 2 議 題
  - （1）第4期鎌ヶ谷市地域福祉計画の進捗管理・評価について
  - （2）その他
- 3 閉 会

### 【会議要旨】

#### 1 開 会

#### 健康福祉部長挨拶

#### 資料の確認・委員紹介・事務局及び関係者紹介

会議資料の確認、委員紹介、事務局及び関係者紹介を行った。

#### 会議録署名人の選出

鎌ヶ谷市地域福祉計画策定・推進委員会委員名簿の順に沿って、田尻委員と田邊委員に決定した。

#### 傍聴人の有無の確認

傍聴の希望者はいないことを確認した。

## 2 議 題

### (1) 第4期鎌ヶ谷市地域福祉計画の進捗管理・評価について

計画書本編に基づき、地域福祉計画の概要を改めて説明するとともに、本計画を令和14年度まで延長する旨を報告した。

また、資料に基づき、第4期鎌ヶ谷市地域福祉計画の進捗管理・評価について説明を行った。

徳田委員長

ただいまの事務局からの説明や、その他本日の会議資料に対するご質問やご意見などあるか。

手塚委員

自分自身の立場に関連し、ボランティアの現状について、お話しさせていただきたい。ボランティア連絡協議会では、会員の高齢化及び減少が大きな問題になっている。外部的な要因として、企業が定年延長したことによる働く高齢者の増加などもあると思うが、ボランティアそのものがあまり知られていないという実態もあるのではないかと考えている。というのも、ボランティアと言うと、どうしても災害ボランティアを思い浮かべる人が多く、福祉的なボランティアは意外と知られていない現状がある。

では、知ってもらうためにはどうしたらよいかということになるが、経験を通して学ぶ、知ってもらう機会を作るという観点から、小中学校又は高校などでボランティアのPR活動がもっとできるといいなと思っている。また、社会福祉協議会や高齢者支援課、健康増進課など、それぞれの団体や課と関係するボランティアが複数あり、ボランティアをしている立場でも知らないボランティア団体が意外と多くあるため、交流を含めた懇談会を実施するなどし、横のつながりも大切にしていけたらと思う。

今井次長（事）社会福祉課長

ボランティア活動については、資料1の1ページに記載のあるとおり、市民活動推進課や社会福祉協議会を中心に、ボランティア育成に関する講座の実施等行っており、また、手塚委員からお話しいただいた小中学校では、社会福祉課が所管しているボランティア団体である赤十字奉仕団が車椅子体験等を通じて、ボランティア活動を行っているところである。

また、各ボランティア団体の交流といったものは、あまりできていないのが現状なので、ボランティアの周知、啓発活動などと共に今後検討していきたいと思う。

手塚委員

小中学校でのボランティア体験の話をしたのは、10年後、20年後を見据えた環

境づくりという観点からも、学校での体験学習を通して子どもたちに学んでもらうことが次の世代の育成に繋がるのではないかと思ったからである。車椅子体験等のボランティアを行っているという話もあったので、そういう場で他の団体も入り周知していくことなども今後徐々にできればいいと思う。

徳田委員長

社会福祉協議会で災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練を行っており、小中学校の児童生徒が参加していたと思うので、例えば小中学校や教育委員会と連携して、協議体を作るといったようなこともできればと良いと思うがいかがか。

小笠原部長

自分自身が新規採用職員の面接等を通して、ボランティアを経験している方が増えてきているなというのは実感としてある。それは、小中学校や高校の授業の中にボランティアの授業が組み込まれているというのが大きいと思うが、先ほど手塚委員がおっしゃったようなその授業の中で、具体的に活動しているボランティア団体等の周知をしていることはこれまであまりないと思うので、その辺りは教育委員会等とも情報共有していき、いずれは徳田委員長がおっしゃったような協議体というところまで進められたら良いと思う。今回ご意見いただいた件については、教育委員会にも共有するので今後ともご協力いただければと思う。

徳田委員長

社会福祉協議会より、災害ボランティアセンター立ち上げ訓練の学生の参加人数などわかれば教えていただきたい。

青木次長

参加人数について、手元に資料がなく正確な人数はお答えできないが、小学生から高校生まで幅広い世代の学生にご参加いただいた。毎年度実施しているので、また来年度は、例えば今年度参加された学生が友人に声をかけるなどし、徐々に輪を広げていけたら良いなと考えている。

徳田委員長

その他ご意見はあるか。田邊委員、いかがか。

田邊委員

長い間小学校で勤務していたので、いわゆる福祉体験やボランティアなど、大事なのはその知識や理解ではなく、子どもたち自身が自分で体感、体験し、実感したうえで理解するということだと痛切に感じている。そういう意味で、すごくありがたいボランティアや福祉体験をぜひこれから先も続けていただきたい。

また、本計画の施策1の取組内容の中に「将来の担い手育成の支援」とあるので、できれば先ほど部長から教育委員会とも情報共有しながら進めていくというお話をいただいたが、単発的な体験学習ではなく継続した形の学習の機会を作っていただければと思う。

今回の進捗管理・評価シートの中で、地域住民を講師として福祉の体験学習を行ったというのを拝見し、とても良い取組みだと感じた。今後も地域の方が教育の現場に自然に参加できるような取組みがもっと増えていったらいいなと思う。

#### 今井次長（事）社会福祉課長

田邊委員がおっしゃるとおり、子どもたちにとって実体験を通して学ぶ経験というのは本当に大事だと思うので、地域住民の参加も含めて単発ではなく継続した形の学習の機会を作っていけるよう、教育委員会とも連携を図りながらやっていきたい。

#### 中野委員

地域住民と子どもの交流というのは本当に大事だと思っている。以前は、レクリエーション協会が「昔遊び」をして子どもと交流していたが、レクリエーション協会も会員が減ってしまい、活動が狭まってしまっており、今は、自分が所属する中央東地区社会福祉協議会が地域の学校と連携して、「昔遊び」を行っている。「昔遊び」として、高齢者が昔やっていた遊びを子どもたちに教えることで、その後も交流が続き、近所で会ったときに子どもたちの方から、「あの遊びが面白かった。またやりたい。」等の話が出てきて次につながる。昔は、色々なところから子どもたちの声が聞こえてきていたが、今は全然聞こえてこない。少子高齢化によりそもそも子どもの数が減っているということも原因としてあるとは思いますが、減ってきてしまっている地域住民同士の接触、つながりを、こうした「昔遊び」等を通じて深めていけたらと思う。

また、今は中央東地区社会福祉協議会のみがこの「昔遊び」の取組みを行っているが、これが他の地区社会福祉協議会にも広がっていくと良いなと感じている。

#### 小笠原部長

鎌ヶ谷市では、各コミュニティエリアに児童センターがあり、各児童センターにおいて、地域の自治会や民生委員の方などで運営する運営委員会を設けており、児童センターのイベントの一環として、折り紙や囲碁などの「昔遊び」を子どもたちに教える場を設けている。イベントの際には、「昔遊び」を教えてくれる地域の方を招いたりしているので、ぜひ地区社会福祉協議会の方でもご協力いただける方がいらっしゃれば、参加していただけると良いなと思う。

#### 徳田委員長

今、地域の民生委員話が出たが、民生委員に関連して鈴木委員何かあるか。

#### 鈴木委員

自分自身の地区の話で言うと、民生委員の地区定例会の際に、年に2回、地域の学校の校長先生又は教頭先生が出向いてくださり、交流の場を設けている。そこで学校での子どもたちの様子をお聞きし、民生委員として出来る活動等を検討している。

また、自分は佐津間自治会に属しているが、小学生の子を持つ親世代が地域の子どものための運動会やハロウィン、クリスマス等を企画し、自治会がそれを支援している。若いお母さん方の子どもたちへの思い出作りをしたいという熱意が素晴らしく、今後も支援を続けていきたいと思う。

#### 篠原委員

少し話がそれるかもしれないが、今の小学生は、学校から帰ってくると、外で遊ぶというよりは家の中でゲームをして遊ぶ習慣がついている子どもが非常に多い。ゲームをやり始めると、2時間、3時間すぐに時間がたち、とにかく夢中になってやっている。ゲームが全て悪いわけではないが、ある程度時間を規制することも大事ではないか。教育現場の立場から、そういった規制はできないのかなと感じている。

#### 小笠原部長

自分自身も子どもがいるが、学校から帰ってくるとスマートフォンやゲームをいじっている時間が多いなというのは本当に感じる。スマートフォンの使用時間を制限する条例を制定した自治体も出てきており、学校現場でも、スマートフォンやSNSの正しい使い方を授業に取り入れているが、なかなか中毒性が高いものではあるので、学校側とも連携しながら子どもたちへの刷り込みが出来ていければと思う。

また、児童センターでは、ゲームやスマートフォンは使用禁止ということにしているので、例えば先ほど話にでたような「昔遊び」などのイベントへの参加を通じて、家でのゲーム遊び以外にも、みんなで遊べる場所があるということを伝えていき、子どもたちへ居場所の提供が出来たら良いと思う。

#### 馬場委員

児童センターの話が出たので関連して、北中沢コミュニティセンター及び児童センターでは、10月26日にお祭りがあり、そこで子どもを対象とした工作ワークショップのコーナーが開催される予定である。工作ワークショップでは、認知症啓発マスコットであるオレンジのロバを子どもたちに教えながら作成する。高齢者や地域の方々に子どもたちに作り方を教えるが、子どもたち自身も興味を持ち楽しみながら取り組んでいる様子が見受けられるので、地域の世代間交流という意味ではとても良い機会だなと感じている。

#### 星こども支援課長

今の話の補足で、市内には児童センターが6か所あり、各児童センターでは地区社

会福祉協議会にご協力いただき、子どもたちが楽しめるお祭り等を開催いただいている。子どもたちがおせんべい焼きの体験をしたり、地域の方と一緒に歌や踊りを発表したりと、貴重な体験、経験を地域の方々の協力のもとできており、今後も続けていきたいと思う。

徳田委員長

その他、田尻委員、老人クラブの関係等で何かあるか。

田尻委員

先ほどボランティア連絡協議会の会員減少の話が出たが、老人クラブも同様に、会員が減少傾向にある。何とか食い止めようということで、最近は色々な行事のたびに、マンツーマンで友達を勧誘するということを始めている。というのも、全体にチラシを配付して周知してもなかなか効果がなかったの、まずは仲良しの友達をマンツーマンで誘い仲間にしていこうということで取り組んでいる。ただ、チラシなどを通じ、全体に周知していくことも引き続き重要だとは思っており、きらりホールで年に3回程イベントを開催しているが、その際には、チラシを配付して活動を周知しているところである。高齢者が増えている中で、1人でも元気な高齢者に外に出てもらい、行事に参加してもらいたいという思いがあり、日々老人クラブの活動を続けている。

舘岡副参事（事）高齢者支援課長

老人クラブの皆様には、日頃から歌や踊り、グラウンドゴルフなど、幅広く活動いただいているが、こういった趣味の活動だけでなく地域の見守り活動等にも積極的にご参加いただいているところである。市としては、高齢者支援課内に老人クラブの事務局があるので、例えば広報誌の作成や様々な会議のバックアップ等を通じて、会員の皆様が活動しやすい環境づくりを今後も続けていきたいと思う。

また、田尻委員がおっしゃったお友達マンツーマン勧誘は、お友達を勧誘し加入していただくことで、地域での横のつながりが広がり、いざという時に、地域福祉計画の軸にもなっている「共助」という部分で何か役に立つものがあるのではないかと感じているので、今後も連携しながら支援していけたらと思っている。

徳田委員長

その他、三浦委員いかがか。

三浦委員

近年、障がい者の方のグループホームが増えてきているが、最近、自分の自宅の近くにあった空き家から複数の男性が出入りする姿を見かけるようになり、不思議に思っていたら、実はその空き家が障がい者のグループホームになっていたということが

あった。地域共生社会という観点からも地域にグループホームが増えることに関して反対ではないが、地域住民の立場からしてみると、突然隣に障がい者の方々が多く住む施設ができたりするとちょっと不安に感じる人が多いのではないかと思ったりもする。以前は、こういった施設などを建設する際は、市や地域の自治会長等に説明をしていたように思うが、鎌ケ谷市では障がい者のグループホームが建設されるときは、地域の方へ説明する場を設けているのか等、どのような流れになっているのかお聞きしたい。

遠藤障がい福祉課長

鎌ケ谷市では、障がい者のグループホーム建設の際には、特段地域の方へ説明する場は設けていないが、グループホームを運営していく中で、地域の自治会長等、関係する方や市のケースワーカー等が年に一度集まって、情報共有する場を設けるようにと国からも指導があるので、そういったところから徐々に広げていければと思っている。

徳田委員長

その他、八須委員いかがか。

八須委員

前回の会議でもお伝えしたが、将来の担い手育成の観点から、子どもたちへは体験、学習の場を設けるとともに、その親に対しても何らかのアプローチをしていかないと、子どもがいくらやりたいと思っても親がその思いを止めてしまってはそこから先に進めない。子どもにとって親の理解は必ず必要だと思っているので、親自身が体験する場、または学習の機会が今後設けられていくと良いなと思っている。

また、先ほどから子どもたちのボランティア参加についての話が出ているが、例えばボランティアを1回するごとにポイントが増えるなどのポイント制を取り入れ、そのポイントが加算していくことで、年間一定のポイント数に達成した子どもには表彰するなど、そういう形で何かしらのインセンティブをつけないと参加する子どもがなかなか増えないのではないかなと正直感じている。ポイント制というのはあくまで一つの例だが、子どもたちも自分自身が何か成し遂げたことによって評価されるシステムがあった方が嬉しいと思う。自分自身の子どもに置き換えて考えてみた時にも、ボランティアに参加した先に何かしらのインセンティブがあった方が意欲的に参加するだろうなと思った。

また、先ほどボランティアというと、災害ボランティアを思い浮かべる人が多いという話があったが、福祉関係者の立場から、能登半島地震では、1.5次避難所がポイントになっていたと感じている。市の方で、今後検討しているようであればご意見を伺いたい。

小笠原部長

八須委員よりご提案いただいたポイント制度については、以前別の部署にいた際にマイナンバーカードを使ったマイナ自治体ポイントというものを検討したことがある。独自で作ると何千万規模のものにはなるので、国が進めている自治体ポイントを活用しながら、ボランティアだけでなく健康体操への参加などを通してポイントが溜まっていく仕組みをつくることは、新しいことを始めるきっかけにもつながると思うので、引き続き検討はしていきたいと思う。

本間参事（事）健康増進課長

1. 5次避難所というのは、仮設住宅等に行く前の一時的な避難施設になると思うが、やはり排泄が自分で出来ない方や認知症の方など周囲の支援が必要な方は、そこでの生活が結構大変だったと思う。高齢者や障がい者など避難所の生活において、特別な配慮が必要な方については、「福祉避難所」というものもあり、鎌ヶ谷市では、次期地域防災計画の中で改めて各所属において検討していこうと今動き始めているところなので、今後もこれまでの災害等で実際に起きた事例等も参考にしながら、災害に対するあらゆる想定を進めていければと思う。

徳田委員長

その他、何かあるか。

中込委員

資料1の共助・協働事項についての記載方法について、どの取組みについても「何々を要請する」や「お願いする」といった書き方になっており、誰がどこに要請、お願いをするのかがよくわからないと感じた。内容としては、良いことばかり書いてはあるが、もう少し具体的に誰がどこに要請するのか、あるいはお願いするのかといったような記載方法にするともっとわかりやすくなるのではないかなと思う。

今井次長（事）社会福祉課長

共助、協働事項は、我々市の立場からすると、市民の方にやっていただきたいことにはなるので、この項目は基本的には市民の方へのお願いになっている。しかし、ただやってほしいことを市民の方をお願いするのではなく、どのようにうまく共助が進んでいくのかを市としては一緒に検討していかなければいけないと思っている。例えば、ご意見をいただいた自治会の加入率を上げるためには、自治会を担当している市民活動推進課があるので、行政が自治会連合協議会と連携しながら促進を図っていくこととなり、共助をどう高めていくのかというのは、市が間に入りながら連携していくことが大事だと思っているので、今後も引き続き取り組んでいけたらと思う。



篠原委員

他市の話になるが、松戸市では、ボランティアの年間行事一覧を小中学校や高校の児童生徒に配付しているという話を聞いたことがある。一覧を配付してもらうと、それを見て自分に興味のあるものに参加することができ、ボランティアを受ける側も自発的にボランティア活動しに来てもらえて助かると思う。ボランティアに参加した児童生徒を対象に学校から表彰を行っているという話も聞いたことがあるので、ぜひ松戸市の例を参考に鎌ヶ谷市でも検討していただければと思う。

今井次長（事）社会福祉課長

貴重なご意見をいただいたので、松戸市の取組みについては、調べてみたいと思う。

また、本件に限らず、他市の先進的な取組み等は随時調査していき、良いものは鎌ヶ谷市でも取り入れていければと考えている。

徳田委員長

ボランティアの表彰の話があったが、社会福祉協議会では、災害ボランティアセンターの養成講座又は立ち上げ訓練に参加された方に対し、修了証書をお渡ししていると思うが、そのあたりの説明をしていただけるか。

青木次長

先ほど八須委員からも話があった子どもたちのインセンティブにも繋がると思うが、災害ボランティアセンターの養成講座又は立ち上げ訓練に参加された方は、希望により活動証明書を発行している。

また、夏休みには、ボランティア期間を設けており、各ボランティア団体に児童生徒の受け入れをお願いしているが、このボランティア活動についても、活動証明書を発行している。中には、その証明書を目的にボランティアを継続する子どももいるので、今後も活動意欲が増す仕組みづくりを心掛けていきたいと思う。

鈴木会長

今の話に関連して、北部地区の第二層協議体で行事があった際に、学生がボランティアで来ていただき、その際にも最後に修了証書をお渡しした。市で発行していただくこともとても良いことだと思うが、まずは小さなところから、各地域でこのような取組みが進んでいくと良いなと感じている。

徳田委員長

他に意見はあるか。意見はないようなので、議題（１）を終了する。

続いて、事務局より事務連絡をお願いしたい。

## **(2) その他**

事務局より事務連絡を行った。

## **4 閉 会**

以上で会議は終了した。

会議録署名人署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため、次に署名する。

令和7年11月6日

氏 名 田尻 昌治

氏 名 田邊 光子